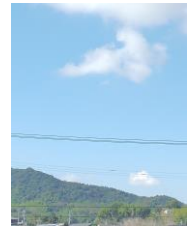


「秋の空の雲また聖書に出てくる雲」

10月になりました。9月下旬でも30℃を越える暑い日がありましたが、これからは日ごとに過ごしやすくなっていきます。秋の空は晴れ渡りますので、高く見えると言われます。この時期も、皆様のご健康や体調が支えられますようにお祈りいたします。



教会の牧師室には窓があります。普段は机に向かつての仕事が多いのでその窓から見える景色は気分転換になります。じっと雲を見つめていますと、少しずつ移動しているのが分かりますし、鳥が飛んでいたり、電線に止まっているのを見ることもあります。すぐ近くに鷲の山が見え、季節によって山肌の違いを知ることができます。右上の写真は実際に窓から見える風景です。洗濯物を干す人たちは、天気予報も参考にしますが、実際に空模様や雲行きによって判断する「生活の知恵」を身につけていますし、完全でなくてもある程度の予測ができるのも素晴らしいことです。



「雲」と言いますと、「ひこうき雲」、「入道雲」、「うろこ雲」、「いわし雲」などよく聞きますが、私の手元には「ときめく雲図鑑」(出版:山と溪谷社、2020年初版発行)という雲に関する、現役の気象予報士が書いた中古の本(左の写真)があり、たくさんの雲の名前が出てきます。「うね雲」、「並雲」、「レンズ雲」、「ひつじ雲」など聞いたことのない雲の名前も多く、雲はいろいろな形になるのがとても不思議です。雲の名前だけでなく、なぜ雲ができるのか、また雲の楽しみ方まで書かれています。

聖書にも「雲」に関しての記事がたくさん出てきます。その一つとして旧約聖書の出エジプト記13章21-22節には「主は、昼は、途上の彼らを導くため雲の柱の中に、また夜は、彼らを照らすため火の柱の中において、彼らの前を進ませた。彼らが昼も夜も進んで行くためであった。昼はこの雲の柱が、夜はこの火の柱が、民の前から離れることはなかった。」と書かれています。かつてイスラエルの民はエジプトで奴隷の生活を送っていました。神様はイスラエルの民がエジプトで苦しんでいる様子をご覧になって、彼らをそのエジプトから解放し、やがて約束の地カナンへと導きます。モーセは民を導く指導者として選ばれました。出エジプト記にはモーセに導かれたイスラエルの民が、約40年という長い年月をかけながら荒野を移動し、約束の土地に向かって旅していく様子が描かれています。確かにモーセはイスラエルの民を導きましたが、神様ご自身が昼は「雲の柱」をもって導き、夜は「火の柱」をもって彼らを照らされました。神様がイスラエルの民と共におられ、民を導いておられるという「あかし」でした。私たちが時として困難な道を進まなければならないことがあります。「どうして?」とか「なぜだろうか?」と問いかけるようなこともあります。しかし、その道を自分一人だけで歩いているのかと考えてみると、決して一人ではないことに気づかされます。神様は私たちの目には見えませんが、現代においては当時のような「雲の柱、火の柱」がありませんが、聖書のことばの約束によって、神様ご自身が確かな導きをもって私たちの歩むべき道をご導いてくださるのです。

新約聖書ではイエス・キリストの「十字架上の死」と「復活」が最大の出来事として書かれています。私たち人類の罪の身代わりとなって十字架で死んでくださったことと、墓に葬られ、よみがえられたという記述があります。十字架と復活の出来事のあとのキリストの様子について著者ルカは使徒の働き1章9節で「こう言ってから、イエスは使徒たちが見ている間に上げられた。そして雲がイエスを包み、彼らの目には見えなくなった。」と8節の内容を受けて記しています。雲に包まれて天に帰られたことが記されており、この直後の使徒1章11節では、御使いたちが、そこにいた人たちに対して、「どうして天を見上げて立っているのですか、あなたがたを離れて天に上げられたこのイエスは、天に上って行くのをあなたがたが見たのと同じ有様で、またおいでになります。」と語りました。聖書の最後の「黙示録」にも書かれていることですが、キリストは再びこの地上に戻って来られることをご自身が約束してくださいました。「孫悟空」のように雲の上に乗ってやって来るというよりも、栄光の雲に包まれて、もう一度来られるという確かな約束です。

聖書を最初から最後まですべて把握し、理解するのは難しいことかもしれません。しかし書かれた内容を自分に対するメッセージとして信じ、受け止めるならば、私たちの根本的な生き方、また人生がまったく変わるのです。読書の秋と言われます。「世界のベストセラー」と言われる聖書を手にして、読んでくださることを心から願っています。